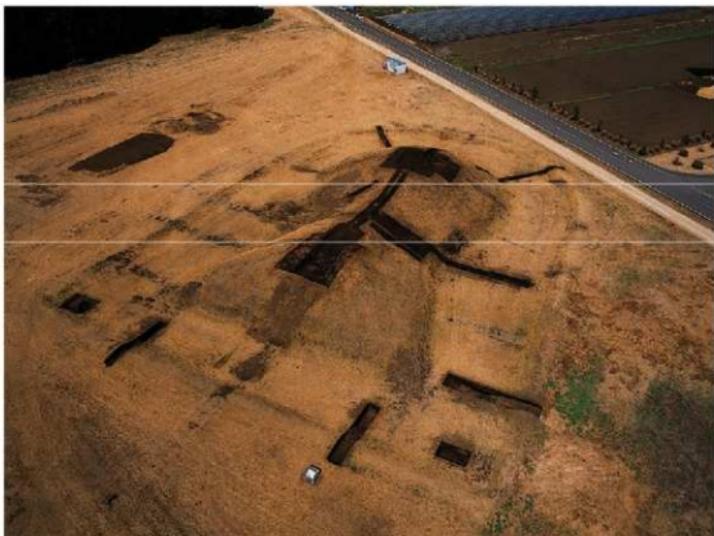


特別史跡

# 西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書（XIV）



2011.3

宮崎県教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の平成22年度の事業概要報告書である。
- 2 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、県立西都原考古博物館が実施した。
- 3 復元整備工事は、県土整備部西都土木事務所に予算を分任して実施した。
- 4 発掘調査地点、復元整備工事の実施地点は、下記のとおりである。
  - 46号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二5670番地
  - 47号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二5670番地
  - 202号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3930番地
- 5 本書の執筆・編集は、県立西都原考古博物館学芸担当主査　崎田一郎・同主査　藤木聰が担当した。
- 6 発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

## 目　　次

第Ⅰ章 発掘調査及び整備の経緯	1
第1節 既往の整備事業	
第2節 西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業	
第Ⅱ章 47号墳発掘調査	3
第1節 古墳の立地	
第2節 既往の発掘調査	
第3節 調査の概要	
第Ⅲ章 202号墳発掘調査	6
第1節 古墳の立地	
第2節 既往の発掘調査	
第3節 調査の概要	
第Ⅳ章 46・47号墳整備工事	11

# 第Ⅰ章 発掘調査及び整備の経緯

## 第1節 既往の整備事業

特別史跡西都原古墳群は、大正元年から同6年にかけて、我が国初の学術発掘調査が実施されたことや、昭和41年から同43年まで、第1号の「風土記の丘」整備事業が行われたことで知られている。以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。

その経緯を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では、史跡の「保護」に加えて、その「活用」という観点から、平成5・6年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、6年度末に「西都原古墳群保存整備基本計画」をまとめて、同計画に基づき平成7年度より新たな整備事業に着手している。

平成7年度から同14年度にかけては、文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」（平成9年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。

その後、平成15年度から19年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」により、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事を実施した。

さらに平成20年度からは5か年計画で「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」により、「第1古墳群」を中心とする一帯の保護活用を図ることとなった。

## 第2節 西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業

宮崎県教育委員会では、平成19年度に前述の「西都原古墳群保存整備基本計画」を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、平成20年度より標記事業に着手している。

当該事業は、広大な面積を擁する西都原古墳群の中でも各時期の前方後円墳が集中し、大正時代の発掘調査も多く実施されている「第1古墳群」を主たる対象と定め、計画的に整備事業を行っていくものである。

本年度は、46号墳の北側周溝内に位置する47号墳と平成20年度から継続している202号墳（「姫塚」）の発掘調査を実施し、復元整備工事に必要な基礎的データの収集を行った。

整備工事は、12月より着手し、46号墳については、周溝と葺石の復元、47号墳周辺については、本発掘調査で得られた情報をもとに墳丘の復元を行った。また、見学者のための説明板を3基設置した。なお、202号墳については、平成23年度に復元整備工事を行う予定である。



第1図 西都原古墳群全図及び発掘調査・復元整備古墳の位置

## 第Ⅱ章 西都原47号墳発掘調査

### 第1節 古墳の立地

47号墳は、「第1古墳群」のほぼ中央にある46号墳の北に近接して立地する。46号墳は「第1古墳群」の中で最大の前方後円墳（全長約84m）である。築造時期については、墳丘形状と出土土器から古墳時代前期末から中期初頭と想定される。

### 第2節 既往の発掘調査

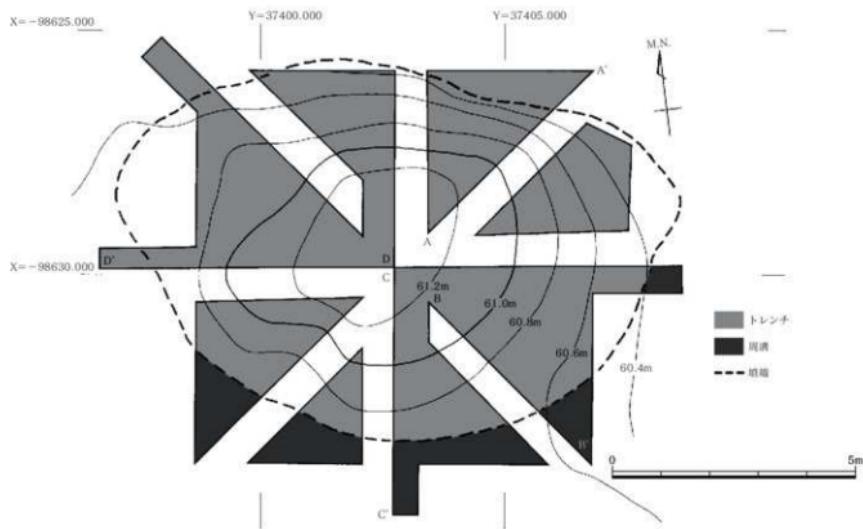
47号墳は、平成20（2008）年度に発掘調査された。その結果、墳丘の北側は、昭和初期までの開墾時の掘削により削られ正在ること、墳丘の大部分は地山削り出しであること、46号墳の周溝埋土で墳丘下部が被覆されていることが明らかとなり、46号墳と関連する「島状の祭祀」施設である可能性が指摘された。なお、遺物の出土はなかった。

### 第3節 調査の概要

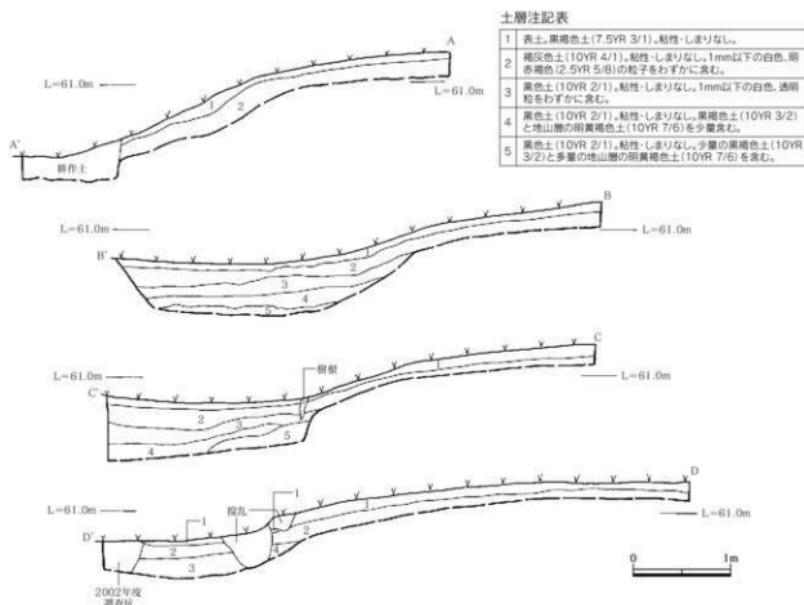
今年度は、46号墳との一体的な整備を進める上で必要な、47号墳の詳細な墳丘規模や性格等の確認を主眼に調査を進めた。

まず、調査前に楕円形であった墳丘形態については、墳端や墳丘傾斜等を勘案した結果、直径9mの円墳として復元するに至った。不整形な墳形という現状は、早くに46号墳周溝埋土で覆われることで現状をより保つこととなった47号墳墳丘南側と、埋土で覆われることなくより長く露出したことや、その後の開墾等の影響も受けやすかった同北側で、変更の度合いに差が生じた結果と考えられる。47号墳の墳端は、46号墳周溝内で全周するのではなく、北側のみ周溝の外まで墳端が広がっている。46号墳の調査所見と総合すると、46・47号墳の周辺地についておおよそ始良Tn火山灰（AT）付近の深度まで削りつつ浅い周溝を作り出し、その掘削土を盛土することで46号墳を築造した可能性が高い。47号墳は、46号墳北側くびれ部付近の周溝内外に跨るように、46号墳築造の当初から削り残されたものである。墳丘面には、その後の削平等を考慮したとしても、葺石や埴輪あるいは土器等を配置したような痕跡あるいは埋葬施設は確認されなかった。また、47号墳付近の周溝埋土については、その最下部に地山ブロック（AT等）混入土が見られた。地山ブロック混入土は、主な周溝埋土であるきめの細かい黒色土よりも下位にあたり、同溝への埋土堆積に先立ち、47号墳が崩落・流出した結果の墳丘土ブロックと考えられる。きめの細かい黒色土の上部には、47号墳墳丘までも覆う、やや灰色がかかつた暗褐色土（その最上部は表土）が堆積する。暗褐色土の堆積は、周溝部分で厚く、47号墳丘上では薄い。なお、遺物は、表土中より土師器小片ならびに近世陶器が出土した。

これらの調査結果により、47号墳は、46号墳に付属して同時に築造された、直径9mの円墳状の祭祀等を行う施設であったものと考えられる。



第2図 調査前の47号墳の墳丘とトレンチ配置 (S=1:100)



第3図 47号墳の墳丘・周溝土層断面実測図 (S=1:50)



47号墳と46号墳



47号墳 周溝と墳丘の立ち上がり

## 第Ⅲ章 西都原202号墳発掘調査

### 第1節 古墳の立地

202号墳（姫塚）は、「第1古墳群」の西端に位置する前方後円墳である。西方の谷頭付近には酒元ノ上横穴墓群があり、北方約400mには、横穴式石室を有する206号墳（鬼の窟古墳）がある。

### 第2節 既往の発掘調査

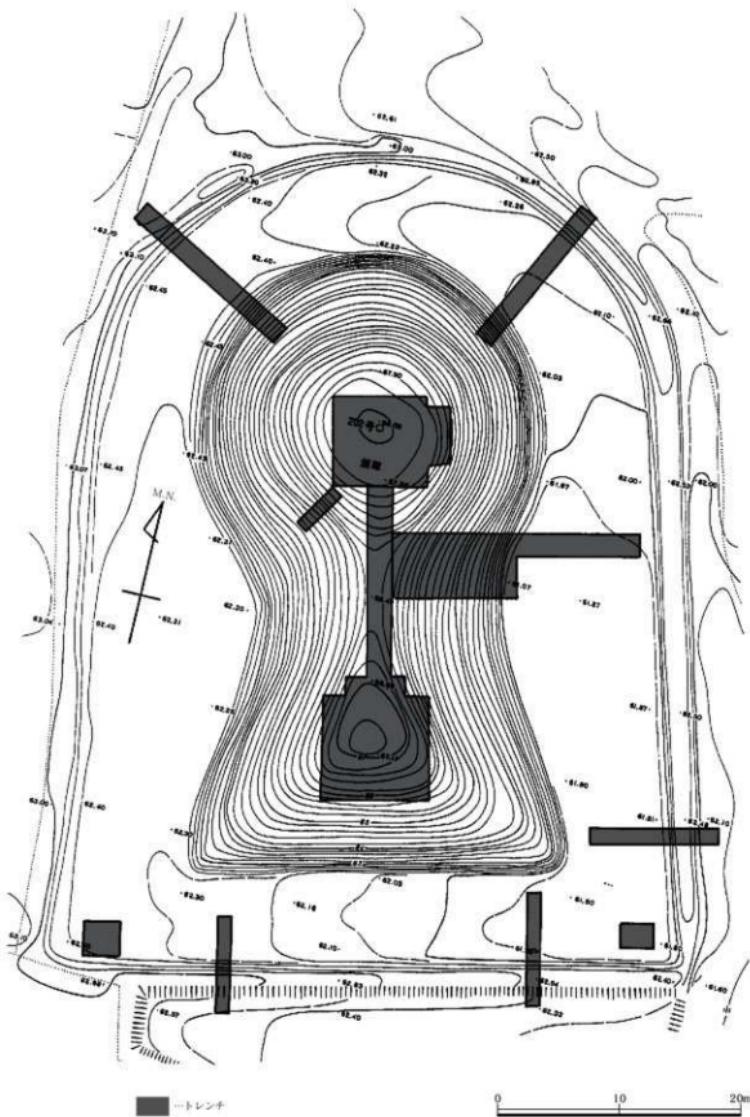
202号墳は、大正元（1912）年の第一次調査において、黒板勝美、今西龍、濱田耕作等によって、後円部の墳頂平坦面と前方部ならびにくびれ部付近が掘り下げられた。その結果、後円部から直刀、鉄鏃、玉類、須恵器等が、前方部からも同様の出土品が見られた。これにより、後円部ならびに前方部とともに埋葬主体があると予想されたが、その詳細は不明なままであった。

平成20・21（2008・2009）年度の古墳整備に伴う調査では、後円部墳頂の大正時代の調査坑（以下、大正坑と称する）を再精査する過程で、これまで明らかではなかった埋葬主体の一部が現えられた。また、古墳の周囲に現状より深く周溝が巡り、その外側の周堤帯（『風土記の丘』整備により復元）の位置は概ね本来的であること、墳丘は全周にわたって二段築成で葺石は認められないこと等が判明した。出土遺物は、丹塗りの高壇あるいは壺、須恵器壺、ガラス玉、鉄鏃等がある。

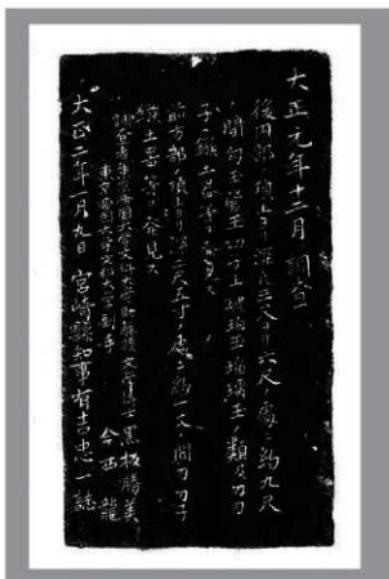
### 第3節 調査の概要

今年度は、後円部の埋葬主体に関するデータを収集するとともに、前方部の墳頂平坦面ならびに東側くびれ部の大正坑を再精査し、同時に墳丘形状や築造状況の把握に努めた。後円部では、大正坑の中央において当該調査終了後に埋置された石板と配石を確認し、最終的に大正坑の埋め土を全て除去した。その結果、大正坑により大部分が失われた隅丸方形で大形の墓壙が2基検出された。両者の前後関係は、遺構の切り合い等が大正坑により既に失われているため、わずかながらの遺物等による検討を待つこととなった。埋葬主体は、木棺墓の可能性がある。また、主体部検出の過程で、精査面に石製勾玉・耳環等が露出したため、それらについて位置記録の後に取り上げた他、埋め土中よりガラス玉等も回収された。前方部の大正坑では、埋め土中より土師器や鉄鏃等の出土はあったものの、埋葬主体等の痕跡は確認されず、仮に埋葬主体等が存在したとしても大正坑で完全に失われたものと考えられる。東側くびれ部の大正坑は、最上部から裾までを掘るもので、その断面等で二段築成の様子を明瞭に捉えることができた。周溝と周堤帯については、これまでの調査成果を補足ならびに追認し得る深さ等のデータを採取し、整備を行う上で基礎資料とできた。

また、墳丘の地中レーダー探査により、何らかの構造物の存在を予想させる強い反射が見られた箇所を掘り下げる。その結果、盛り土の築造状況等を把握し得るとともに、反射の要因と見られる強固な硬化面を検出した。



第4図 202号墳の墳丘とトレンチ配置 (S=1:400)



石板写真（上段左）

石板拓影（上段右）

石板刻文（下段左）

石板出土状況（下段右）

202号墳出土石板（大正元年12月調査）



202号墳 全景



202号墳 前方部大正時代調査坑



202号墳 くびれ部大正時代調査坑



202号墳 後円部大正時代調査坑

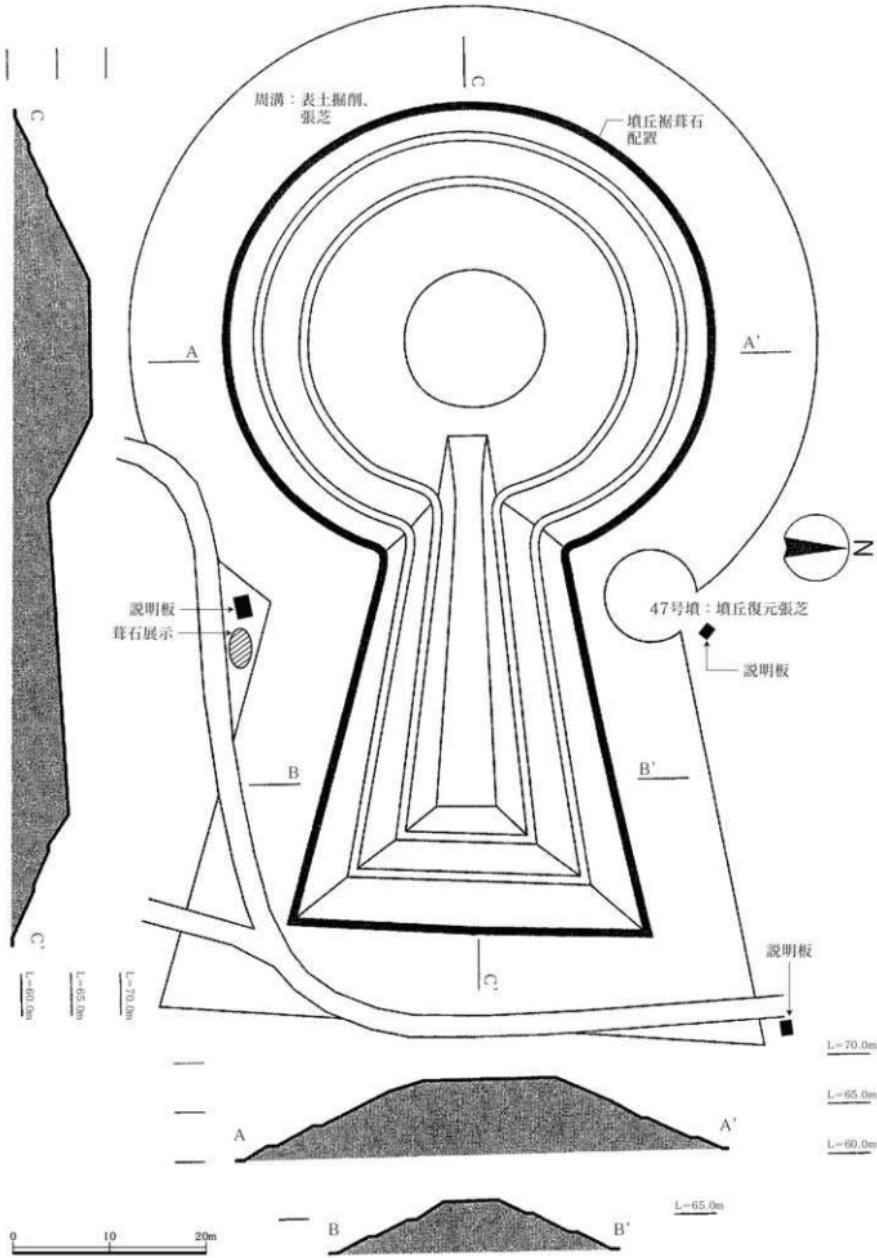
## 第IV章 46・47号墳整備工事

46号墳は「第1古墳群」のほぼ中央部に立地する前方後円墳である。墳長は約80mで、男狹徳塚・女狹徳塚という巨大な中期的古墳に繋がる古墳である。三段築成で、立ち上がりが明瞭でない浅い周溝を有する。葺石の根石の残存状況は良好である。

同墳については、平成11年度から発掘調査を開始し、平成19年度に報告書を刊行した。その後、平成20年度に追加調査を実施し、前方部と後円部の接合部の状況や、同墳周溝内に位置する47号墳の墳丘の確認を行った。本年度は、47号墳の追加調査を実施し、前回の調査で明らかにできなかった墳丘の形状復元のための情報の収集を行った。

これらの調査結果を踏まえて、工事の実施設計を行い、平成21年度は、46号墳の三段築成の墳丘の表現等の整備工事を実施した。本年度の工事は、12月から2月にかけて行い、46号墳では、周溝の位置の表示と芝の貼付け、墳裾部分への葺石の設置を行った。また、47号墳では、本年度の調査で得られた墳丘の規模と性格等についての情報に基づいて墳丘の復元を行った。さらに見学者のために3基の説明板を設置した。





第5図 46・47号墳 整備工事平面図 (S=1:500)



工事整備後の46・47号墳



工事整備後の46・47号墳

## 報告書抄録

フリガナ	トクベツシセキ サイトバルコフングン ハックツチョウサ・ホゾンセイビガイヨウホウクショ
書名	特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書
シリーズ名	一
シリーズ番号	XIV
編著者名	崎田一郎、藤木 聰
発行機関	宮崎県教育委員会（県立西都原考古博物館）
所在地	〒880-0805 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号 (〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670番)
発行年月日	2011(平成23年)年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	調査期間	調査原因	調査面積
西都原古墳群 202号墳	宮崎県西都市大字 三宅字原口二3930	45208	2010年9月17日 ～ 2011年3月31日	史跡整備関連	344m <sup>2</sup>
西都原古墳群 47号墳	宮崎県西都市大字 三宅字原口二5670				40m <sup>2</sup>
		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
		古墳	古墳	周溝	土師器 須恵器 ガラス小玉 勾玉 耳環

※46号墳については、整備工事のみであるため記載しない。

---

特別史跡

**西都原古墳群**

発掘調査・保存整備概要報告書（XIV）

2011年3月

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県立西都原考古博物館

印刷 北一株式会社

---